

◆次第：①開会、②議事、③その他

◆議事：①基本構想（中間答申案）について ②基本計画の各論の様式について
③第5次総合計画 後期基本計画 評価検証について
④総合計画における「地域ごとのまちづくり計画」の記載内容について

◆審議概要：

①基本構想（中間答申案）について

<共通>

- 現状認識が部会案と比べて大きく変わっており、市民や行政が現状の認識をどこまで捉えて「めざすまちの姿」になったのかが、分かりにくくなった。
→「めざすまちの姿」と同じような書きぶりになっているという第2部会の指摘を踏まえ、全体で統一した表現に修正したが、前回の部会案をベースに両部会長と事務局で調整する。

<都市経営>

- 「○」5つ目、「スマート自治体」とあるが、どのような経緯で出てきたのか。
→10、20年先を見据えた自治体の基本的な姿勢として、国の研究会で提唱された言葉。ICTを活用し、限られた職員でも行政サービスを維持、向上させていく考え方である。
- 現状認識④、「行財政運営」の施策のみに、SDGsが記載されているが、SDGsは、行財政運営のみならず、全体的なものとして、市において取り入れていく必要がある。
→SDGsは世界的なものであり、宝塚市は取り組むという意味を表に出るような形にした方が良い。
→一市民として、子ども食堂や地域食堂に関わっているが、SDGsは意識して既に取り組んでいる。
→SDGsの17の目標のアイコンマークを付けるのであれば、初めのところで書ける。今後、継続議論していく。

<安全・都市基盤>

- 「○」7つ目、「河川・水辺空間」の施策における土砂災害対策の扱いについて、検討はしたか。
→検討したが、「砂防法」を基に、国ならびに兵庫県が中心となってハード対策に取り組んでおり、他の適当な表現を追加することや新たに施策を立てることは難しいと判断した。
- 現状認識③、西谷の下水処理（公共下水道の整備や合併処理浄化槽に係る支援）についての記述をどこかに入れてほしい。
→地域ごとのまちづくり計画がどうなっているかも考えないといけない。

<健康・福祉>

- 「○」4つ目、地域福祉における“包括的な支援”の注釈を入れたほうが良い。

- 現状認識②、高齢者や障碍（がい）者の支援が難しくなっていることや障碍（がい）者が高齢になったときの介護保険への移行が難しいといった包括的な支援体制が必要であることの理由を記載した方が良い。

<人権・子ども・教育>

- 「○」1つ目、「人権・同和・男女共同参画」の施策を、「人権・子ども・教育」から「都市経営」へ位置づけることについてご意見をいただきたい。
 - 人権は対象とする範囲が広いと、全体を俯瞰した「都市経営」に位置づけて良いと思う。
 - 人権・子ども・教育の中に、人権や男女共同参画が入るのは少し矮小化されている。全体に通底するものとして人権やSDGsがあるという構造にするのが良い。
 - 人権を前にもっていくかどうか、またその場合の他の項目との関係の調整も含めて、事務局と両部会長で議論する。
- 「○」1つ目、「人権・同和・男女共同参画」となっているが、「人権」だけにしてはどうか。入れるのであれば、めざすまちの姿にその内容を記載するべきでは。
 - 「人権」と一括りにすると、解決したい問題であるという注目度が薄れてしまうため、併記することが多いと思う。市として解決の方向に力を注ぎたいという意志の表れではないか。
 - 人権に関する審議会では、部落差別という単語を用いている。一度、検討していただきたい。
- 「○」2つ目、子どもの権利が守られるというのは虐待などがイメージされるため、子どもの意見を取り入れるということを記載する必要があるのでは。
 - 「子どもの権利条約」の中で子どもの意見表明が定められており、それ以外の子どもの権利もある。それらを含めて現行の表記とした。
 - 意見表明が子どもの権利の中にあるというのは、この表現では読んだ人はわからないので、分かりやすい表現にすべき。
 - 「子どもの権利条約」を、もう一度しっかり見直す旨をクローズアップして周知してはどうか。
 - 現時点ではこのままで良いが、子ども条例があるということを現状認識で記載することも、今後検討してはどうか。
- 「○」2つ目、子どもの人権の取り上げ方が足りないので、「子どもの人権」という言葉を加えることについて検討していきたい。
- 「○」3つ目、「子どもたちが、豊かな自然や文化に触れ」の「文化」を「文化芸術」としては。
- 「○」6つ目、7つ目、社会教育のめざすまちの姿に文化芸術という文言を入れられないか。

② 基本計画の各論の形式について

- 基本構想と同様に、両括弧の数字が多用されているので、読むときに見やすいよう使い分けをしていただきたい。

③ 第5次総合計画 後期基本計画 評価検証について

- PDCAを回していくにあたり、評価検証シートに書かれた成果や今後の課題を、基本計画シートの「現状と課題」へつなげていけばより分かりやすくなる。各課で基本計画シートを記入する際はその点を

留意していただきたい。

- 施策別集計、分野別全体集計、個票、それぞれの資料を作った意図、ポイントが分かりにくい。冒頭に資料の説明を記載していただきたい。

④ 総合計画における「地域ごとのまちづくり計画」の記載内容について

- A案もB案も合わない地域があった場合、全く異なる様式で作成すると時間がかかるのではないか。
- フォントや文字サイズ、書式は最後に統一する必要があるのならば、あらかじめそれらの点について、ルールを設けてはどうか。
- 文字数の制限があると内容を全部変更する必要のある箇所が出てくるので、記入が難しい。
- 地域の将来像と基本目標部分については統一されたフォーマットで再度書き直し、地域ごとのまちづくり計画の本体と総合計画の記載が同一でなくてもよいのか。
→地域ごとのまちづくり計画については、地域ごとに自由にまとめていただきたい。総合計画への載せ方の議論であり、地域ごとのまちづくり計画のまとめ方について制限をしていくことは考えていない。
→地域ごとのまちづくり計画自体はそのままで、地域の将来像と基本目標のエッセンスを1ページにまとめるということならば作成しやすい。
→総合計画に載っていることが感覚的にわかるように、1ページに収まるならば、統一せずにそのまま載せれば良いのではないか。
- 市の職員や市民にまちづくり計画を真剣に受け止めようと思わせるために、プロセスの違いが分かった方が良くと思う。
- 地域ごとの計画がオーソライズされて掲載されることと、計画策定までのプロセスは、行政にとっても市民にとっても大切。会議の回数や行政と市民のやり取りなど、プロセスを掲載してもらいたい。
- 地域ごとのまちづくり計画を推進していくために、地域、行政ともにチェックしていくことを記載してはどうか。
- 地域ごとのまちづくり計画本体が別にあること、総合計画には地域の将来像と基本目標のみを記載していることを盛り込んでどうか。
- まちづくり協議会代表者交流会で決まった方向性で進めていくこととする。

<その他>

- 行政で議論し修正した部分分かるようにしてほしい。
- 自治会の位置づけがしっかりしていないと、まちづくりはできない。
→自治会が地域活動の中核であることは、協働のまちづくり条例の中で位置付けていく。
- 今後、現状認識を踏まえて、目標値、施策の方向性といった具体的な内容を記載するのか。
→基本計画で改めて現状と課題などを記載する。基本構想の現状認識については、基本計画が作成された段階で最終調整を行う。